

2.暮らし

(1) 住まいの状況

在宅の身体障害者（18歳以上）の住まいとしては、8割以上が本人又は家族の持家に住んでおり、借家や借間等の割合は少ない。

在宅の知的障害者（18歳以上）の住まいとしては、自分の家やアパートが8割以上を占めるが、知的障害者のための支援付きの住ま

いであるグループホームや通勤寮を利用している人もいる。

外来の精神障害者の住まいとしては、約4分の3が家族と同居しており、一人暮らしは2割弱となっている。このほか精神障害者のための支援付きの住まいであるグループホームや福祉ホーム等を利用している者、高齢者のための老人福祉施設を利用している人もいる。

■ 図表1-19 身体障害者の住まいの状況（18歳以上）（在宅）

単位：％

| 自身の持ち家 | 家族の持ち家 | 民間賃貸 | 社宅等 | 公社・公団等 | その他(借間等) | 回答なし |
|--------|--------|------|-----|--------|----------|------|
| 51.7 | 30.6 | 6.4 | 0.4 | 7.6 | 1.8 | 1.5 |

資料：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」（平成18年）

■ 図表1-20 知的障害者の住まいの状況（18歳以上）（在宅）

単位：％

| 自宅の家やアパート | 会社の寮 | グループホーム | 通勤寮 | その他 | 不詳 |
|-----------|------|---------|-----|-----|-----|
| 82.0 | 0.3 | 8.9 | 0.1 | 7.5 | 1.1 |

資料：厚生労働省「知的障害児（者）基礎調査」（平成17年）

■ 図表1-21 精神障害者の住まいの状況（外来）

単位：％

| 家族と同居 | ひとり暮らし | 福祉ホーム等 | グループホーム | 老人福祉施設 | その他 |
|-------|--------|--------|---------|--------|-----|
| 76.8 | 17.9 | 1.3 | 1.7 | 0.5 | 1.8 |

資料：厚生労働省「精神障害者社会復帰サービスニーズ等調査」（平成15年）

(2) 同居者及び配偶者の有無

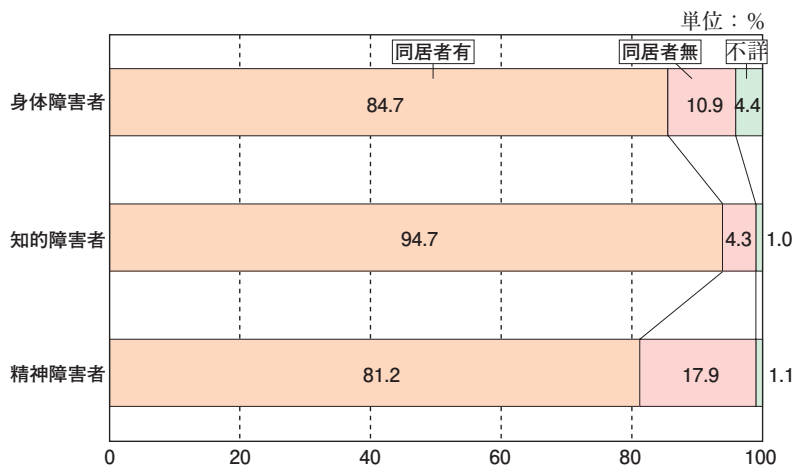
在宅の身体障害者（18歳以上）では、同居者有りが84.7%であり、配偶者のある者も60.2%を占めている。

在宅の知的障害者（18歳以上）では、同居者有りが94.7%であるが、夫婦で暮らしている者は2.3%に過ぎず、大半が親や兄弟姉妹と暮らしている。

外来の精神障害者では、同居者有りが

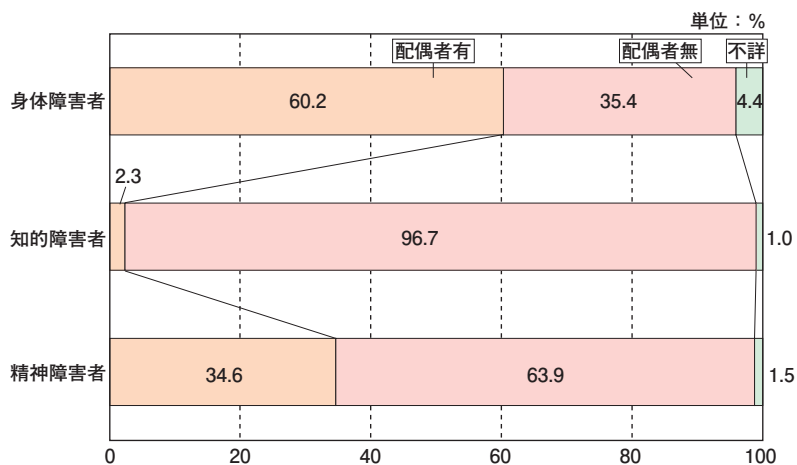
81.2%あるものの、配偶者のある者は34.6%に止まっており、多くが親や兄弟姉妹と暮らしている。一方で、一人暮らしも17.9%ある。なお、統合失調症では配偶者のある者は18.7%であり、統合失調症以外の者で、配偶者のある者が46.0%であることと比べて相当低い水準にあるが、これは比較的若い時期に発症することにも原因があると考えられる。

■ 図表1-22 同居者の有無



資料：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」（平成18年）
 厚生労働省「知的障害児（者）基礎調査」（平成17年）
 厚生労働省「精神障害者社会復帰サービスニーズ等調査」（平成15年）

■ 図表1-23 配偶者の有無



※身体と知的の配偶者有は、同居する配偶者の有る率
 資料：厚生労働省「身体障害児・者実態調査」（平成18年）
 厚生労働省「知的障害児（者）基礎調査」（平成17年）
 厚生労働省「精神障害者社会復帰サービスニーズ等調査」（平成15年）